

02/11/23(土)

平成14年度 和歌山大学柔道部 活動報告



第 21 回 関西学生柔道体重別選手権大会

(5 月 19 日 (日) 於 グリーンアリーナ神戸)

-66kg

堀川	僅差(3-0)	○	武田 (佛教大)
	背負投	○	澤田 (関西大)

-73kg

乾	小外刈	○	藤山 (京教大)
小野	横四方固	○	平川 (兵教大)

-81kg

細見	袈裟固	○	河野勇 (近畿大)
臼井	棄権	○	藤西 (龍谷大)
村田	僅差(3-0)		永田 (追手門大)

-90kg

中本	紙四方固	○	向坂 (京都学園大)
栖原	払腰	○	池田 (京都産業大)

-100kg

中村	棄権	○	大西 (神戸学院大)
----	----	---	------------

<コメント>

今年はインカレ出場を目指していた者もいたが、堀川が一回戦を突破した以外全員一回戦敗けし、その堀川も二回戦で関西大の澤田に敗れた。全体的に体力面での差を感じた試合が多かった。試合結果は悪かったが、各々の課題が見え、次の試合に向けて頑張ろうと意欲が高まった。

＜本戦＞				＜抜き戦＞			
和歌山大	7	-	0	和歌山大		6人残し	滋賀大
乾	○	大内刈	久瀬	東野		×	影山
村田		優勢	岡澤	中村	○	大内返し	今村
栖原	○	合せ技	矢野	〃		上四方固	矢野
臼井	○	払腰	橋本	栖原	○	合せ技	〃
小野	○	燕返し	高田		○	一本背負	橋本
細見	○	上四方固	嘉戸		○	内股	久瀬
中本	○	合せ技	中西		○	内股	中西
					○	崩後袈裟固	岡澤
					○	内股	岡本
					○	横四方固	高田
					○	一本背負	嘉戸
				村田			
				小野			
				乾			
				細見			
				臼井			
				中本			

本戦、抜き戦ともに完勝であった。本戦はそれぞれが自分の柔道することができたので昨年に引き続き圧勝する事ができた。抜き戦においては一年生栖原が圧巻の**8**人抜きをし、一年生**3**人のみで滋賀大**10**人に勝つことができた。

第 44 回 全国国立柔道優勝大会 (7 月 7 日(日) 於 講道館)

<予選リーグ>				<決勝トーナメント>			
和歌山大	3	－	2	岐阜大	一回戦		
乾	○	合せ技		和歌山大	3	－	1 一橋大
堀川		×		乾		×	上田
細見		払腰	○	堀川		×	金子
臼井	○	払腰		細見		×	坂本
村田		内股	○	臼井		合せ技	○ 野瀬
中本		×		村田	○	大内刈	北川
栖原	○	大外刈		栖原	○	後袈裟固	武本
				中本	○	裏投げ	芦本
和歌山大	6	－	0	群馬大	準々決勝		
乾		内股すかし		和歌山大	0	－	7 筑波大
堀川		肩車		乾		大外刈	○ 藤永
細見		×		堀川		内股	○ 町田
臼井	○	袈裟固		臼井		大腰	○ 村松
村田	○	縦四方固		細見		大外刈	○ 榎本
栖原	○	内股		村田		横四方固	○ 高橋
中本	○	合せ技		栖原		一本大外刈	○ 篠崎
				中本		体落	○ 木村
和歌山大	5	－	1	東京農工大			
堀川	○	袖釣込腰		安野			
乾	○	小外刈		西山			
小野		体落	○	小口			
臼井		×		谷口			
細見	○	上四方固		麓			
村田	○	小内刈		三沢			
栖原	○	内股		長井			

<コメント>

予選リーグでは群馬大・東京農工大に快勝し、岐阜大戦は大将戦にまでもつれこんだが勝利することが出来た。ベスト 8 を賭けた一橋戦での試合展開は今までの和歌山大学にない後半逆転しての勝利となった。結果和歌山大学は優秀校に一回生の栖原脩は優秀選手に選ばれた。ベスト 4 を賭けた筑波大との一戦は惨敗に終わった。全国の実力を知る良い経験となった。当日、試合の応援に駆け付けてくださり、試合後食事をご馳走して下さった山口先輩、東京まで応援に駆け付けて下さった腹巻先輩、石川先輩本当にありがとうございました。とても励みになりました。

国体予選（於 柔道会館）

夏合宿（8月20～24日 於 和歌山県立武道館）

練習試合

第40回 近畿地区国立大学体育大会（8月17日（土） 於 吹田市立洗心館）

＜予選＞

和歌山大 棄権勝ち 奈良教育大

＜決勝トーナメント＞

準決勝戦

和歌山大	6	—	1	京都大
堀川		背負投		奥崎
細見		内股すかし	○	柳谷
中本	○	合せ技		原田
臼井	○	払腰		岡本
乾	○	一本背負投		和田
村田	○	払巻込		大井
栖原	○	払巻込		鍛冶

決勝戦

和歌山大	3	—	2	神戸大
堀川		優勢(注意)		元木
村田		大内刈		近藤史
細見	○	腕絡み		森田
乾		×		沖添
臼井		優勢(注意)		近藤正
栖原		×		藤原
中本		内股	○	寺田

＜個人戦＞

細見	○	大外刈		鍛冶	(京都大)
		払腰	○	今井	(大教大)
乾	○	大外刈		和田	(京都大)
		大外刈	○	藤山	(京教大)

＜コメント＞

予選で奈良教育大に気持ちよく勝って波に乗って決勝トーナメントで勝ち進もうと思っていたが、奈

良教育大が棄権してしまったため、初戦が準決勝戦になってしまった。京都大戦は圧勝し、その勢いに乗って昨年決勝戦で惜敗した神戸大戦に臨んだ。決勝戦は勝つということを意識しすぎたためか自分の得意の柔道をする事ができなかった選手もいた。しかし、結果として今年目標であった近国体優勝を第 40 回という記念すべき年に達成することができ、スローガンであった“やればできる”を部員が実感できたと思う。

第 52 回 関西学生柔道優勝大会 (9 月 16 日 (月) 於 尼崎市記念公園総合体育館)

一回戦

和歌山大	3	—	2	京都学園大
乾		試合中の怪我により棄権	○	向坂
堀川		小内刈		山田
村田		内股	○	森
栖原	○	一本背負投		宮原
臼井	○	払腰		山崎

二回戦

和歌山大	5	—	0	京都教育大
村田	○	横四方固		和田
中本	○	一本背負投		木田
臼井	○	大内刈		松山
細見	○	大外刈		太田
栖原	○	内股		柿原

準決勝

和歌山大	0	—	4	大阪教育大
臼井		×		川辺
堀川		内股	○	岩坂
栖原		払腰	○	今井
中本		内股	○	吉川
村田		優勢		柴山

<コメント>

1 回戦の京都学園大戦では持ち前の粘りを見せ勝利し、2 回戦の京都教育大戦は圧勝した。準決勝では大阪教育大に実力を出し切れずに負け、悔しい思いをしたが次への課題を感じることができ、来年は優勝を目指しがんばりたい。

今シーズンを振り返って

主将 乾 譲二（教育学部三年）

和歌山大学柔道部後援会の皆様におかれましては、益々御盛栄のこととお慶び申し上げます。いつもながら和歌山大学柔道部に温かい御支援を賜りまして誠にありがとうございます。現役部員を代表いたしまして御挨拶申し上げます。

今年は新入部員3名を加えて部員総数12名となり、去年以上に活気のある稽古ができるようになりました。また、矢野先生をはじめ、浜口コーチや腹巻先輩に御指導していただいたおかげで、我が柔道部の実力が確実に上がっていると実感できるようになりました。その甲斐あって、『最高でも金、最低でも金』の姿勢で挑んだ近畿国立体育大会では、堀川前主将のもと悲願の優勝を勝ち取ることができました。それ以外にも、全国国立大学柔道優勝大会でベスト8、関西学生団体二部で3位という好成績を収め、部員一同がひとつの目標に向かって努力し、それが結果に表れる楽しさというものを感じることができました。その過程で味わった苦しさ、辛さ、嬉しさは、これからの自分たちの人生における大きな肥やしになるだろうと思います。

今年の9月から正式に主将を務めさせてもらっている私としましては、近畿国立団体・個人優勝はもちろん、全国国立ベスト4以上を目標に定め、去年以上の成績を残したいと思っています。また、関西学生団体では一部に出場してみてもという声もあり、私立の強豪校相手に国立大学の意地を見せたいとも考えています。確かに我々は恵まれた練習環境ではないけれども、強くなりたいと本当に願うなら、マイナスをプラスに転換することが可能であると考え、いろいろな稽古方法を試しています。こうした行事を通じて、先輩方の現役時代の稽古方法を御教授していただけたら幸いです。

私自身、まだまだ技術的・人間的に未熟な部分が多く、理想と現実のギャップに悩むこともあります。柔道部主将はとてもやりがいのある役職であるとも感じています。歴代の先輩方が残してくださった良き伝統を受け継ぎ、下の世代にそれをしっかりと譲っていくことができるよう、和歌山大学柔道部を人間的成長の場とできるよう、そしてみんなが柔道を楽しめる環境を作れるように精一杯頑張りますので、これからも和歌山大学柔道部に更なる御支援、御声援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。